

(流通とSC・私の視点 1524 より続く)

(3) 桜沢エリカさんをモデルとするシニアマーケットのイメージ

ファッションリーダーの新エリート衆の1人に「漫画家の桜沢エリカさん(45歳)」がいます。毎日新聞2008年12月4日号の「くらしナビ・Fashion」で、自らのファッションスタイルについて、自分のライフステージ(世代)単位の変化について述べていました(文中、随所で桜沢エリカさんの言葉を引用させていただきます)。私は、桜沢エリカさんから今後のシニア・ファッションの方向性が見えると感じ、興味を持ち分析しました。

桜沢エリカさんは19歳で漫画家になり高年収、かつ有名人であり、また、ファッション感性の高い今風エリートです。80年代にデビューし、おしゃれな男女の恋愛を描いた都会感性あふれる漫画で、同世代の女性を中心に根強い支持を得ています。また、個性的なライフスタイルも注目される存在で、その装いは、時代や人生の歩みを反映して変化しています。

①現在(45歳)のファッションの基本スタイル

20代半ばまでは「黒のセーターなんて、どれも一緒」と安いものを買っていました。ふと気が付くと10年も着ていることがあり、「それなら良いものを買おう」と思って、「良いものを着ないと自分の気持ちが上がらない」、「良質の服の着心地は違う」と述べておられます。

シーズンごとに洋服を使い捨てるのは嫌。高品質な物を大切に長く着たい。ある程度年齢が上がってくると素材が良いものを着た方が美しく見えてくる。30代半ばから「良いものを選ぶ大切さを実感するようになった」そうです。

②ヤングの頃のファッションスタイル

細見のスーツが流行すれば、シャネルなどのスーツで決めて夜の街へ遊びに出掛けた。体のラインが出るタイトな服に、かかとの高いピンヒール。若い頃は「楽じゃない、でもかっこいい服を選んだ」そうです。

③結婚し子育ての頃のファッションスタイル

99年に結婚し、00年に長男、02年に長女を出産してからは、着るものが変わった(ライフステージ)。個人の好みを優先した装いから、家族全体のバランスや生活を考えるようになった。子供が好むのは、Tシャツにジーンズなどの動きやすい楽な格好。今では、子供に合わせて自分もジーンズにニットなどが基本でした。そして、着こなしが楽なワンピースが好きになったそうです。

④それでも流行への目配りは忘れないファッションスタイル

例えばジーンズを買う時は、デパートの店員に「今、若い子は何を買っていますか」と聞き、流行りのラインをチェックします(アンチエイジ)。だが、ジーンズに合わせるニットやバッグ、靴などは若い子と違う(エイジング)高価なものを選び、カジュアルで楽な服装でも「きちんと見える」ことが大事だそうです。

⑤ストレス解消のファッションスタイル

家族優先の毎日を送る中で、楽しみでありストレス解消法は、漫画の中にもたびたび登場する六本木や西麻布のクラブでの「夜遊び」です。以前のように頻繁には行けなくなったが、今でもそこに集まる仲間たちと音楽を楽しみながらお酒を飲むのは大事なひとときです(エイジレス)。そんな時の装いは「気合いが入らないと着られない服」で、最近は胸元や背中が少し大胆に開いたワンピースを着ることが多く、「肌見せが基本」です。「海外では、60歳を過ぎたお年寄りが肌を露出した服装をしているのを見かけることがあり、素敵だと感じます。日本の女性ももう少しやれるんじゃないか」と思っているそうです。

このように、桜沢エリカさんは、プライベートが変化しても、おしゃれが仕事のエネルギーの源であるのは変わらないそうです。

今、桜沢エリカさんは45歳のミセス層に属します。少し先進的な感じのするファッションスタイルですが、近未来のミセスのファッションスタイルや近未来のシニアのファッションスタイルへのキーポイントがいくつか見られます。

ミセスやシニア層のファッションは、ライフステージ(世代=単身時代、結婚時代、子育て時代、母娘時代、シニア夫婦時代、シニアシングル時代)を基軸にしつつ、「アンチエイジ」(若さを保ちたい)、「エイジレス」(年齢の格差がなく、若い頃のことをしたい)、「エイジング」(自分の年齢を誇りに思う)の熟年代ファッション3原則が桜沢エリカさんのファッションスタイルの中にポイントとして見られます。シニア(55~65歳以上)になった桜沢エリカさんのファッションスタイルが、近未来のシニアファッションスタイルです。

(流通とSC・私の視点 1526へ続く)

(株)ダイナミックマーケティング社⁺₅

代 表 者 ^む ^{ぐるま} 六 車 秀 之